

時実・柳平の対談について

「教育は、詰め込むことよりも、モチベーションを促すことの方が大切」と、時実先生は、この対談の中で語っていらっしゃいます。モチベーションとは、意欲とか、やる気とかという意味の言葉ですが、このことの重要性を指摘し、これを鼓吹することに意欲的な柳平氏の発案で“幼児モチベーションセンター”が開設されたのは、五、六年前のことです。(石井が所長、柳平氏が副所長)以末柳平氏は、しばしば各界の名士と対談を行ってきましたが、この対談はその一つです。

時実先生は、改めて申すまでもなく、わが国の大脳生理学の第一人者として有名な先生です。著書も、数多く刊行されていますが、特に、幼児の漢字教育についての御意見は、他には見られない貴重なものだと思いますので、ここに紹介することにしました。

「幼児が漢字を覚えることの容易なことは、言葉を覚えるよりもやさしいものである」ということを、私は、実験により明らかにしましたが、時実先生は、大脳生理学の立場から、理論的にこれを解明して下さいました。

特に「漢字を読むことは、言葉を話すことと同じだ」と言い、「言葉がわかるなら、漢字がわかって当然」と述べている点を、よく読み取っていただきたい、と思います。

(注)時実先生は昭和四十八年に亡くなりました。著書はたくさんありますが、『脳の話』『人間であること』(岩波新書)など、ぜひ読んでほしいものです。